



**ご参考. 弊社モニターを活用した昨年度調査結果のご紹介**  
**調査名：「新型コロナウイルスの影響と対策」**

# 1. 調査概要

## 調査テーマ：新型コロナウイルスの影響と対策

調査時期 : 2020年11月～12月  
調査方法 : 質問紙郵送調査 WEB調査  
調査対象地域 : 全国(47都道府県)  
調査対象業種 : 運送業  
有効回収数 : 413サンプル

合計		413s
地域別	関東	72
	関西	32
	北海道東北	43
	甲信越	52
	東海中部	77
	中四国	71
	九州	66
業種別	運送業(長距離)	180
	運送業(小口配送)	187
	その他	47
従業員規模別	従業員(～10人)	77
	従業員(～20人)	79
	従業員(～100人)	133
	従業員(101人～)	79
	不明	45

主な調査項目 :

1. 仕事量の変化
2. 車両の稼働状況
3. 21年度の経営方針
4. アフターコロナの変化

## 2. 調査結果

### (1) 仕事量の変化

#### 外食自粛によりchild・冷凍食品の取り扱いが増加

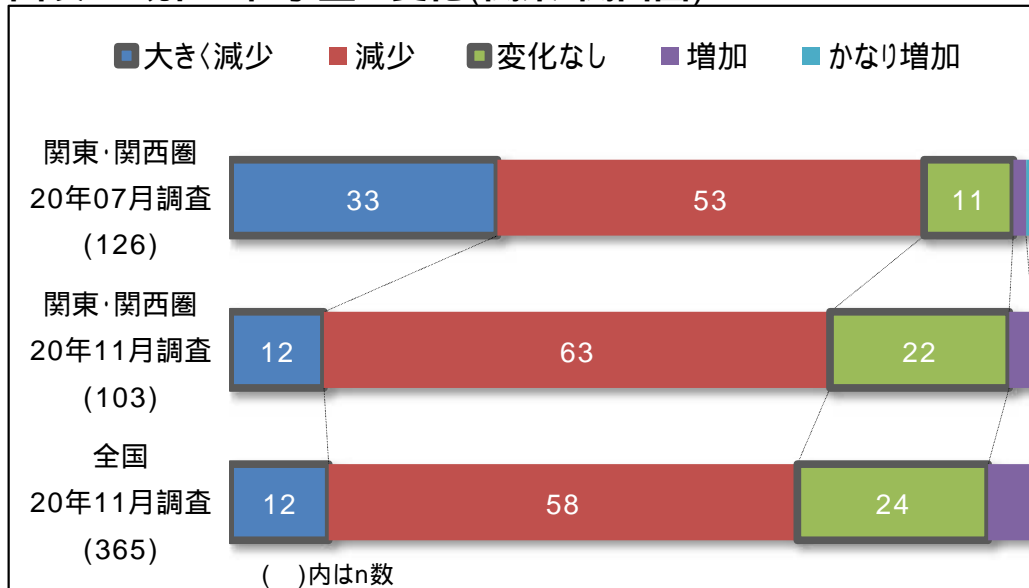
- 昨年10月現在の運送事業者の仕事量は、6月と比べ依然「減少」は増えているが、「大きく減少」が減少。また「変化なし」が増加。1回目の緊急事態宣言の解除後のような大幅な減少はない。(図表1)

注) 前回調査は関東・関西圏のみのため、今回調査と前回調査の比較では、関東・関西圏のみ

- また昨年10月に取り扱いが増えてきた商品は、「child・冷凍食品」「日用品・雑貨品」。特に「child・冷凍食品」は前回調査より増加。コロナ禍の自粛生活の中で、外食から内食・中食へのシフトが進んだものとみられる。(図表2)

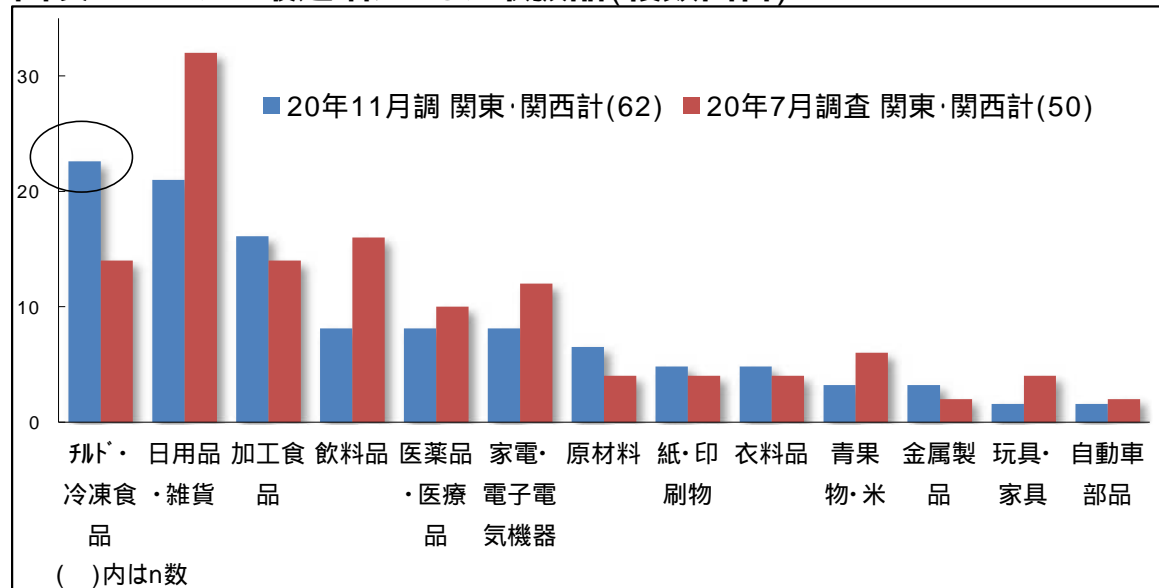
図表1. 現在の仕事量の変化(関東・関西圏)

単位：%



図表2. コロナで最近増えてきた取扱品(複数回答)

単位：%



## 2. 調査結果

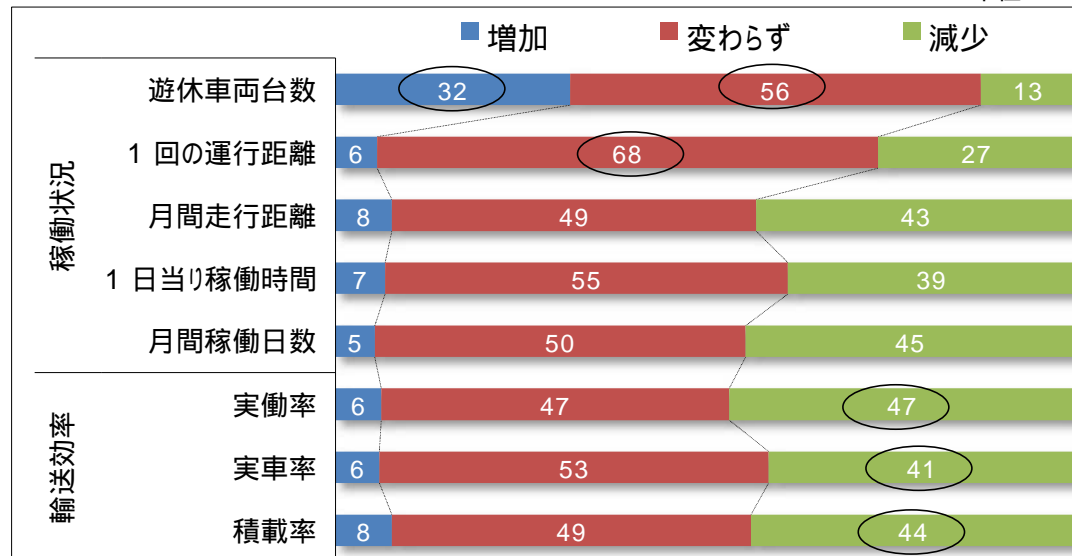
### (2) 車両の稼働状況

車両の稼働状況の大きな悪化はないが厳しい状況は継続

- 遊休車両台数は、3割の事業者が「増えた」とする一方、約6割の事業者は「変わらない」と回答。運行距離や稼働日数なども半数以上が「変わらない」としており大きな悪化には至っていない。
- 一方、車両の輸送効率については4割以上の事業者が、「減少」と回答。厳しい状況は続いている。（図表3）
- また車両の稼働状況を事業者別にみると小口運送事業者の「変わらない」回答率が長距離運送事業よりも高い。（図表4）

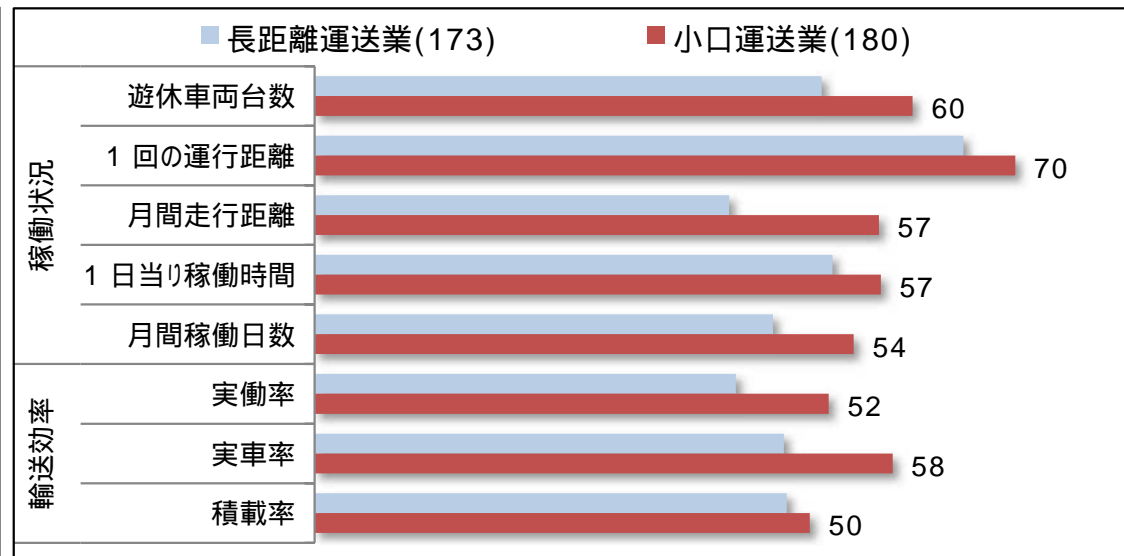
図表3. 車両の稼働状況の変化

単位：%



図表4. 事業者別の稼働状況

単位：%



前年同月と「変わらない」回答率

## 2. 調査結果

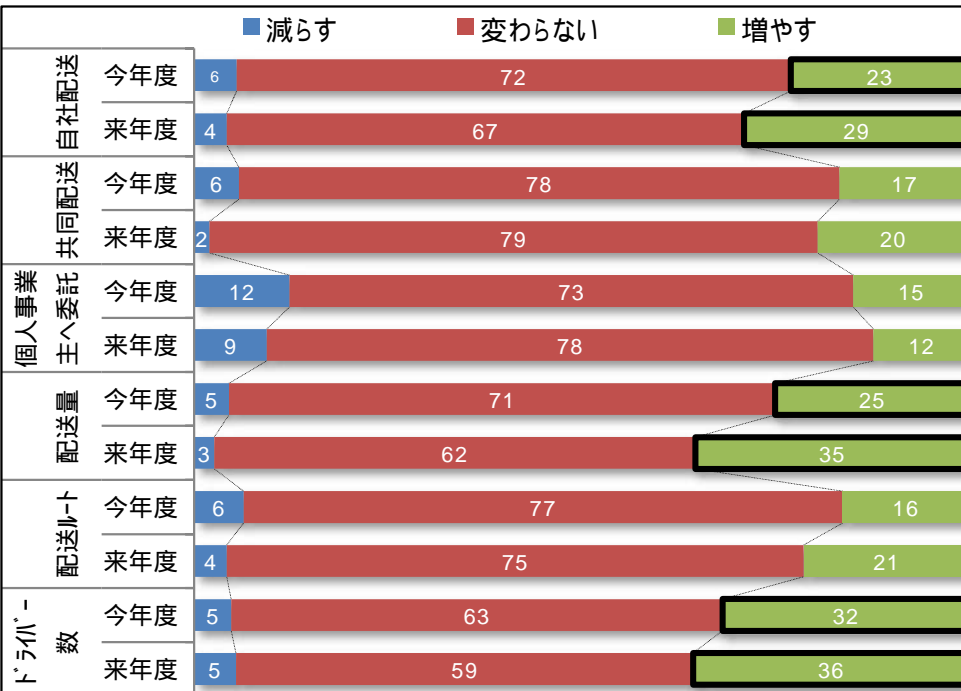
### (3) 21年度の経営方針

#### 21年度は攻めの姿勢も

- 事業者の来年度の経営方針には、攻めの姿勢も見られる。来年度の計画では「自社配送」「配送量」「ドライバー数」を増やす事業者が多くなってきている。（図表5）
- ただし次年度の車両台数については増やす意向は少なく、定期的な代替程度で大きな設備投資の意向は少ない。（図表6）

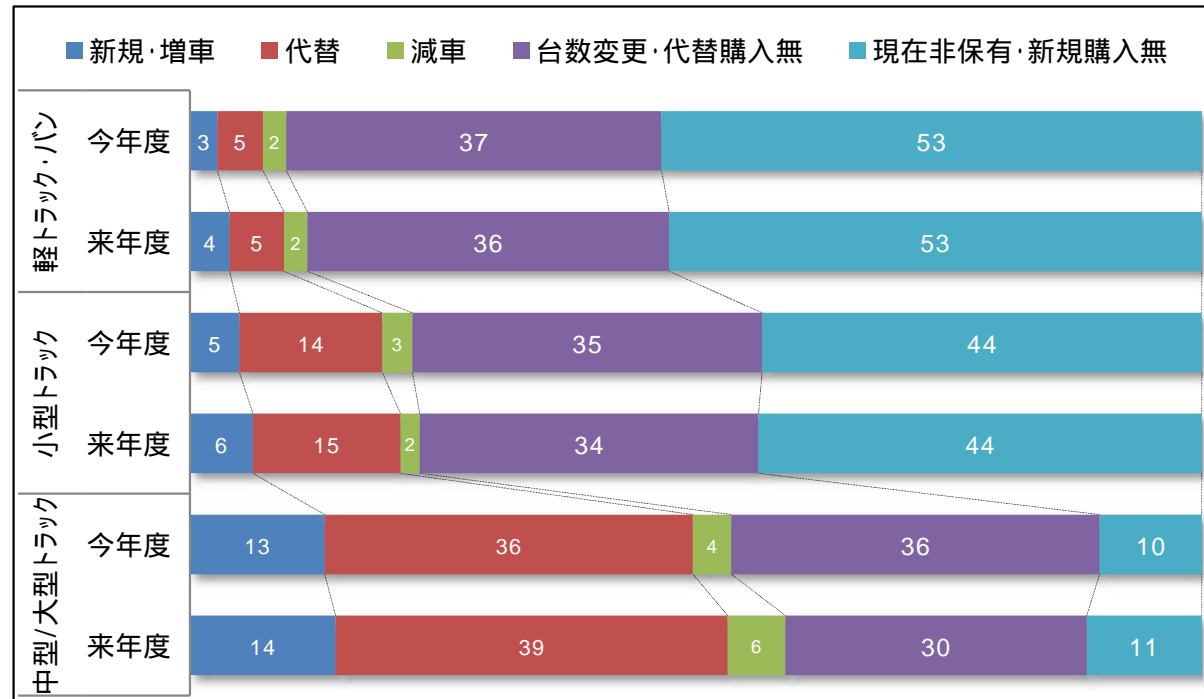
図表5. 21年度の経営施策

単位：%



図表6. 21年度の車両台数計画

単位：%



## 2. 調査結果

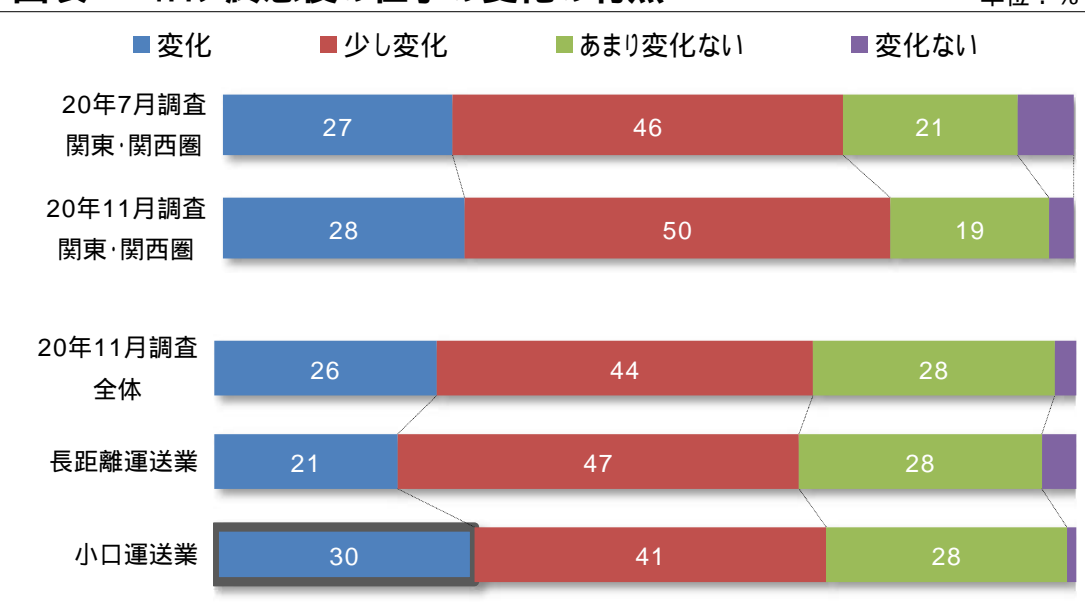
### (4) アフターコロナの変化

#### コロナ禍後もネット通販商品の増加を予想

- 今回調査では、前回調査に比べ変化意識が高まっており、特に小口運送事業者の変化意識が顕著。コロナ禍による宅配貨物の増加を現場感覚で認識しているものと考えられる。(図表7)
- 具体的な変化の内容として「安全衛生が徹底した物流システムの導入」、「ネット通販業者商品の取扱い増加」が上位と前回と同様。次いで「自社配送の増加」「配送量の見直し」など。(図表8)

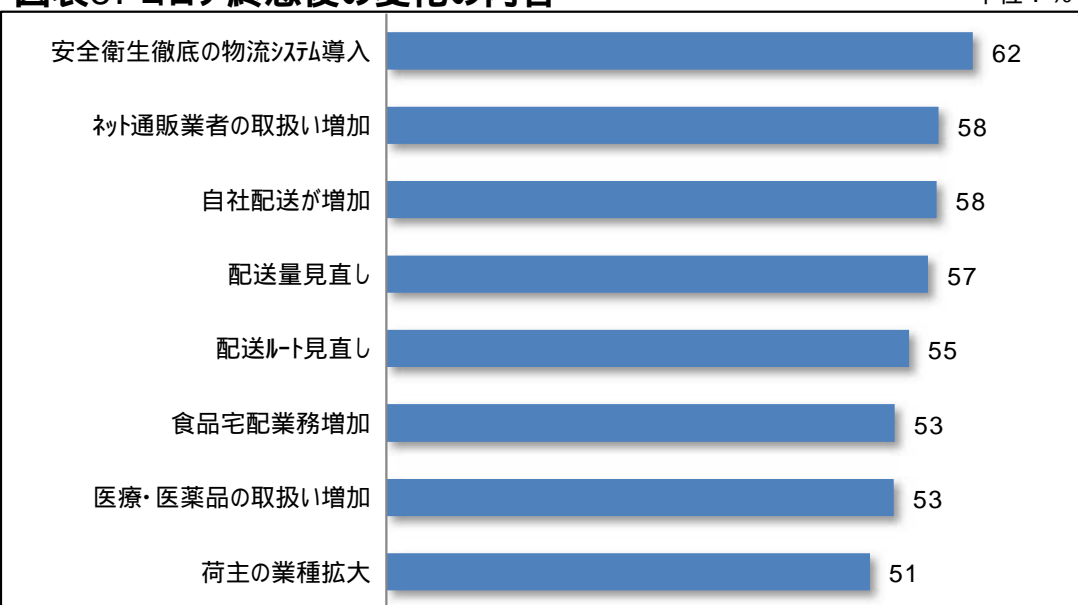
図表7. コロナ終息後の仕事の変化の有無

単位：%



図表8. コロナ終息後の変化の内容

単位：%



「非常にそう思う」と「そう思う」を足した比率